

第5節

日米共同訓練・演習など

日米同盟の抑止力・対処力の強化にあたり、日米共同訓練は重要な役割を果たしている。自衛隊は、各軍種間の共同訓練や日米共同統合演習（実動演習および指揮所演習）を着実に積み重ねており、自衛隊の戦術技量の向

上や米軍との連携強化などを図るとともに、地域の平和と安定に向けた日米の一致した意思や能力を示してきた。

1 日米同盟の強化に資する訓練

1 統合による日米共同訓練

自衛隊は、武力攻撃事態などにおける自衛隊の運用要領および日米共同対処要領を演練し、自衛隊の即応性と日米の相互運用性の向上を図るため、日米共同統合演習「キーン・ソード」（実動演習）、「キーン・エッジ」（指揮所演習）を行っている。

2025年度は、令和7年度日米共同統合演習「キーン・エッジ26」を行い、各種事態における日米共同対処および自衛隊の統合運用について演練・検証し共同統合運用能力の維持・向上を図った。

本演習には、同志国との連携強化を図るため、豪軍が参加した。

衛作戦について演練した。本訓練は、西部方面隊と在沖米海兵隊などが九州・北海道において実施した、国内における米海兵隊との最大規模の訓練である。今年度は、一層厳しく複雑になるわが国周辺の安全保障環境を踏まえ、本訓練の一環として行われる米軍の単独訓練において、岩国飛行場に米陸軍の地上発射型中距離ミサイルシステム（タイフーン）を展開した。

2026年1月から2月にかけて、米陸軍との実動訓練「ノース・ウインド26」を行い、積雪寒冷地における実動訓練に加え、連隊・大隊レベルの指揮幕僚活動を演練し、戦術技能の向上を図るとともに、陸上自衛隊の作戦遂行能力および米軍との相互運用性の向上を図った。また、国内の日米共同訓練としては初めて、カナダ陸軍の1個小隊が米陸軍の一部として訓練に参加した。

2 各自衛隊の日米共同訓練

(1) 陸上自衛隊

陸自は、中央・太平洋レベルなどの米陸軍および米海兵隊と運用上・戦略上の連携を強化している。共同訓練は、ハイレベル交流などとあわせ、日米共同対処態勢の強化につながる取組として、進化・発展を続けている。

2025年度は、米陸軍との実動訓練「ライジング・サンダー25」を実施し、無人偵察機などによる情報収集と連携した実弾射撃訓練に加え、無人機による攻撃への対処訓練などを行って、部隊の作戦遂行能力、戦術技量および相互運用性の向上を図った。

2025年9月、米海兵隊との実動訓練「レゾリュート・ドラゴン25」を行い、領域横断作戦と米海兵隊のEABO¹を踏まえた連携を焦点としつつ、一連の島嶼防



「ノース・ウインド26」

1 近年の長射程装備の発展を踏まえ、米海兵隊が考えた新しい作戦の構想で、島や沿岸部などに小規模で機動的な拠点を一時的に展開し、監視、情報収集、補給支援などを行うもの。大きな基地に頼らず、拠点を分散・移動させることで、攻撃されにくくし、前線で活動する部隊を支援する。



VOICE

同盟国との即応態勢の礎

米海兵隊第3海兵機動展開部隊 司令官(当時) 中將 ロジャー・ターナー

21世紀における抑止は、信頼性のある能力と揺るがない意志によって実現されます。日々、第3海兵機動展開部隊(Ⅲ MEF)の海兵隊員および海軍兵ならびに自衛隊は、不断の統合的な取組みを通じて、共同の即応態勢を鍛えるとともに、対処能力を強化しています。持続的な関与によって、私たち日米の部隊は、単に同じ場所で活動するにとどまらず、真の意味で相互運用可能となり、結束した機能として、相互に通信、展開、機動および補給を行うことができます。アイアン・フィスト、レゾリュート・ドラゴン、キーン・ソードといった演習を通じてこの統合性を実証することにより、Ⅲ MEFと自衛隊は、日本の防衛や共通の利益を支えるために必要となる連携を示しています。これはあらゆる危機にも断固として対応するための能力の基盤であり、同盟に対するいかなる侵略も、迅速かつ統合的で圧倒的な対応によって対処されることを明確に示すものです。

インド太平洋地域における新たな課題に対処するため、Ⅲ MEFの海兵隊員及び海軍兵は、機動展開前進基地作戦(EABO)能力の強化に重点を置いています。これらの取組みの中で最大のものが、毎年行われる演習のレゾリュート・ドラゴンです。2025年の同演習では、米国の海兵隊員、海軍兵、陸上兵および航空兵約5,200人に加え、約1万4,000人の自衛隊員が参加し、日本列島全域にわたりEABO及び領域横断作戦を演練しました。レゾリュート・ドラゴンにおいては、作戦レベルおよび戦術レベルの双方における日米両部隊の能力を示すことにより、私たちが同盟国たる日本とともに危機に対応する能力を具体的に体現しています。本演習において、Ⅲ MEF隷下の第1海兵航空団および自衛隊は、日米の航空機を組み合わせ運用し、主要な陸海域に統合火力の能力を輸送して、地対艦ミサイルシステム(NMESIS)、統合防空システム(MADIS)、ペトリオット・ミサイル部隊および日本の12式地対艦ミサイルシステムなどを展開しました。日米部隊は、北海道から与那国に至るまで、戦闘

力を重要な地域に迅速に展開する能力を示しました。

さらに、アイアン・フィストのように毎年行われる演習は、日米同盟の強さを示す象徴として日米の戦略的効果を一層強化しています。本演習は、約3,500人の米軍人とそのパートナーたる陸上自衛隊の水陸機動団(ARDB)の隊員が参加し、その規模は、統合的な即応態勢に対する私たちの深いコミットメントを示しています。本演習では、水陸両用作戦や日米共同の地上作戦を反復して演練することにより、戦闘力を革新的に構築しています。特に、日米の結束した指揮統制能力を強化することで、通信が悪化したり遮断されたりする可能性のある厳しい作戦環境においても、水陸両用部隊が分散して展開することが可能となります。

日本が主権を有する領域を守るための自衛隊との連携は、人道支援を含むあらゆる領域の作戦に及びます。令和7年度自衛隊統合演習では、石垣島においてⅢ MEFの第3海兵後方支援群および第12海兵沿岸連隊が、陸自とともに人道支援・災害救援のシナリオを訓練しました。この訓練では、患者治療のための応急医療施設の設置や、負傷者の後送に関する訓練が含まれており、高度に統合された対応能力を示しました。

日米同盟が二国間で一層強化されるなか、私たちは引き続き多国間協力の機会も追求しています。2025年に実施された第40回目の「バリカタン」では、米国、日本、オーストラリア、フィリピンから1万4,000人以上の部隊が参加し、部隊間で肩を並べて緊密に連携した訓練を実施しました。日米豪比の統合部隊はフィリピン全域において6回にわたって実施された難易度の高い全領域にわたる実動演習を通じて、防空・ミサイル防衛、着上陸対処、海上警備能力を向上させました。

日米同盟は、静的なものではなく、絶えず進化を続ける動的なパートナーシップです。アイアン・フィスト、レゾリュート・ドラゴン、バリカタンなどの演習は、日米同盟を支える高度に鍛え上げられた協力を体現する

ものです。将来を見据え、Ⅲ MEFは、70年以上にわたる誇るべき歴史の上に、尊敬すべき同盟国である日本との揺るぎない連携を維持していきます。前方展開し、統合的かつ高い対処能力を有する部隊である私たちは、



アイアン・フィスト26 第31海兵遠征部隊
日米共同による市街地戦闘訓練

日本の防衛および平和で繁栄したインド太平洋に対する米国のコミットメントを体現するものです。

海兵隊は今も、そしてこれからも、「今戦う」準備ができています。



レゾリュート・ドラゴン25
オープニング・セレモニー（筆者中央左）

(2) 海上自衛隊

海自は、伝統的に米海軍と精力的に共同訓練を行っており、艦艇や航空機による日米共同訓練、対潜特別訓練、掃海特別訓練、衛生特別訓練、日米衛生共同訓練を通じ、日米共同対処などの実効性や領域横断作戦能力の向上を図っている。

例えば、米海軍空母打撃群との共同訓練を着実に積み重ねるとともに、わが国周辺海域、東シナ海、南シナ海において幅広く日米共同訓練を行い、日米同盟の抑止力・対処力を不断に強化している。また、陸自および米海兵隊との共同訓練や、空自および米空軍との搜索救助訓練「RESCUE FLAG IWAKUNI」など、他軍種を交えた日米共同訓練を積極的に行い、総合的な抑止力・対処

力の強化に取り組んでいる。

(3) 航空自衛隊

空自は、米空軍演習「レッド・フラッグ・アラスカ」や、米空軍との共同訓練「コープ・ノース」（2011年以降は日米豪で実施）のほか、2025年7月から8月にかけて、米軍主催訓練「レゾリュート・フォース・パシフィック」に参加し、日米同盟の抑止力・対処力を強化している。また、米海軍や米海兵隊との対戦闘機戦闘訓練、要撃戦闘訓練、防空戦闘訓練、搜索救難訓練などの各種日米共同訓練により、日米共同対処などの実効性の向上や領域横断作戦能力の向上を図っている。

参照 資料31（主な日米共同訓練の実績（2025年度））



動画：日米共同訓練～Japan-U.S. Bilateral Exercise～
URL：<https://youtube.com/watch?v=uYXL8fJjQio>



動画：令和7年度国内における米海兵隊との実動訓練「レゾリュート・ドラゴン25」
URL：<https://www.youtube.com/watch?v=VF7Pr3mT29I>

2 日米に第三国を交えた多国間共同訓練

各自衛隊は、米国のみならず、第三国の参加も得たハ

イレベルな多国間共同訓練に積極的に取り組んでいる。

オーストラリアや欧州諸国の軍隊を交えた訓練を通じ、自衛隊の戦術技量の向上を図るとともに、各国軍隊との連携および相互運用性を高め、わが国の抑止力・対処力を強化している。

1 統合による日米に第三国を交えた多国間共同訓練

自衛隊は、2025年9月、米軍および韓国軍と複数領域における日米韓共同訓練「フリーダム・エッジ25」を行った。本訓練では、海上作戦訓練、航空作戦訓練、後方補給作戦訓練、サイバー攻撃等対処訓練を行い、自衛隊の戦術技量を向上させるとともに、複数領域における日米韓の相互運用性の向上を図った。



「フリーダム・エッジ25」

2 各自衛隊の日米に第三国を交えた多国間共同訓練

(1) 陸上自衛隊

ア 令和7年度米豪軍との実動演習「サザン・ジャッカルー25」

陸自は、2025年5月から6月にかけて、オーストラリアで行われた米豪軍との実動演習に参加し、オーストラリアの良好な訓練基盤を活用した集結地域の警戒、攻撃戦闘および防御戦闘にかかる一連の戦術行動に関する訓練、実弾射撃訓練などを行い、陸自部隊の作戦遂行能

力の向上、米豪軍部隊との連携強化を図った。

イ 令和7年度米豪軍との実動訓練「オリエント・シールド25」

陸自は、2025年9月、米陸軍および豪陸軍それぞれの指揮系統に従い、共同して作戦を実施する際の連携要領を実行動により演練した。

本訓練には、豪部隊が国内での日米共同による実動訓練へ初めて参加し、日米豪の共同戦闘訓練、共同実弾射撃訓練および共同衛生訓練を行ったほか、日豪の共同情報収集訓練、日米の共同基地警備訓練などを実施して、作戦遂行能力の向上を図った。

ウ 日米豪共同指揮所演習 (YS-89)

2025年8月から9月にかけて、わが国で行ったYS-89は、日米豪陸軍種による最大規模の指揮所演習である。

本訓練では、陸自、米軍および豪軍が協同して作戦を実施する場合における指揮幕僚活動と日米豪間の調整要領を演練し、日米同盟の抑止力・対処力と、日米豪間の連携を強化した。



「オリエント・シールド25」

(2) 海上自衛隊

ア 日米豪情報戦会議「ブルー・スペクトラム25」

海自は、2025年3月、米海軍および豪海軍とサイバー対処に関する情報作戦会議を行い、日米豪情報戦部隊間の連携強化ならびに米海軍および豪海軍情報戦部隊との相互運用性の向上を図った。



動画：「サザンジャッカルー25」

URL：https://m.youtube.com/watch?v=1QUEkCBg4yM&pp=ygUb44K144K244Oz44K444Oj44OD44Kr44Or44O8

イ 日米印豪共同訓練「マラバール2025」

海自は、2025年11月、グアム島および同周辺海空域において米海軍、インド海軍、豪海軍および豪空軍との共同訓練を行った。海自からは、護衛艦「ひゅうが」およびP-1が参加し、対潜戦、対水上戦などの訓練を行い、参加各国との相互運用性の向上を図った。

ウ 米軍主催多国間共同訓練「パシフィック・ヴァンガード25」

海自は、2025年8月から9月にかけて、グアム島周辺において行われた「パシフィック・ヴァンガード25」に参加した。本訓練は、米軍が主催する多国間共同訓練であり、日米豪韓およびニュージーランドの5か国が参加した。本訓練では、海自の護衛艦「いせ」、「すずなみ」、補給艦「おうみ」および潜水艦が、参加国との間で、ミサイル射撃訓練や対水上戦訓練などを実施し、海上自衛隊の戦術技量を向上させるとともに、参加国海軍などとの連携を強化した。



「パシフィック・ヴァンガード25」



「武士道ガーディアン25」

(3) 航空自衛隊

ア 米軍主催訓練「レゾリュート・フォース・パシフィック」

空自は、2025年7月から8月にかけて、米軍主催訓練「レゾリュート・フォース・パシフィック」に参加し、日本周辺空域において日米の戦闘機などによる防空戦闘訓練などを行ったほか、日本国内の自衛隊施設や在日米軍施設・区域において、共同で患者後送訓練などを行い、強固な日米同盟のもと、相互運用性の向上を図った。

イ 武士道ガーディアン25

2025年9月から10月にかけて、日米豪のF-35Aが参加する、日本での初の日米豪共同訓練を行った。

本訓練では、戦闘機などによる防空戦闘訓練や、地上での共同での整備訓練などを行い、相互理解、信頼醸成のほか、日米豪空軍種間の相互運用性の向上を図った。

 参照 3章2節2項（同志国などとの多国間訓練）



動画：武士道ガーディアン25

URL：<https://www.youtube.com/watch?v=LJIONq8lApA>

